

2026 年 10 月 23 日



村上龍氏 ご逝去のお知らせ

作家の村上龍氏が 2026 年 10 月 17 日に自宅で 逝去されました 享年 74 歳
ここに謹んで哀悼の意を表し ご報告申し上げます
葬儀におきましては 家族葬として執り行われました
ご家族の希望により ご弔問 ご香典 ご供花 ご弔電及び供物は 辞退させていただいております
また ご家族のお気持ちにご配慮いただき ご遺族ならびに近親者への取材やお問い合わせなどは くれぐれもお控えくださいますようお願い申し上げます

『限りなく透明に近いブルー』に始まり 常に若い世代に向けて衝撃的な作品を発表し続けた村上龍氏の早すぎる逝去の報せを受け 深い悲しみに堪えません
時代のトップランナーとして疾走した同氏の安らかな眠りをお祈り申し上げます

有限会社村上龍事務所／株式会社幻冬舎編集本部

村上龍氏 プロフィール

1952 年長崎県生まれ。

1976 年、大学在学中に執筆したデビュー作『限りなく透明に近いブルー』で第 19 回群像新人文芸賞および第 75 回芥川賞を受賞。単行本・文庫を含め約 350 万部という大ヒットを記録。1980 年、『コインロッカー・ベイビーズ』で第 3 回野間文芸新人賞を受賞。バブル経済期の東京を舞台に女性たちの孤独と精神的渴望を描いた『トパーズ』や、少女の再生の旅を描いた『KYOKO』では、村上氏自らが監督・脚本を務めて映画化し、国内外で大きな話題となる。

1994 年、「第二次世界大戦で日本が降伏しなかった世界」を舞台にした『五分後の世界』を発表。1997 年、『インザ・ミソスープ』で第 49 回読売文学賞を受賞。

2003 年、「好きなこと」を入り口に 600 種類以上の職業を紹介した職業図鑑『13 歳のハローワーク』が 180 万部を超える。2005 年、『半島を出よ』で第 58 回野間文芸賞と第 59 回毎日出版文化賞を受賞。

経済トーク番組「カンブリア宮殿」のメインインタビュアーを約 20 年間にわたって務めた。

激動する社会の光と影を鋭く見据える作品を精力的に発表し、国内外から注目を集めた。遺作は『ユーチューバー』。

村上龍 著作物一覧（発表順）

- 1976 年『限りなく透明に近いブルー』【小説】（デビュー作、群像新人文学賞・芥川龍之介賞）
1977 年『海の向こうで戦争が始まる』【小説】
1980 年『コインロッカー・ベイビーズ』【小説】（野間文芸新人賞）
1983 年『だいじょうぶマイ・フレンド』【小説／絵本】
1984 年『悲しき熱帯』【小説】
1985 年『テニスボーイの憂鬱』【小説】
1985 年『アメリカン★ドリーム』【エッセイ】
1986 年『POST ポップアートのある部屋』【小説】
1986 年『走れ！ タカハシ』【小説】
1986 年『ニューヨーク・シティ・マラソン』【小説】
1987 年『愛と幻想のファシズム』【小説】
1987 年『69 sixty nine』【小説】
1987 年『テニスボーイ・アラウンド・ザ・ワールド』【エッセイ】
1987 年-2018 年『すべての男は消耗品である。』【エッセイ】（全 12 巻）
1988 年『トパーズ』【小説】
1988 年『村上龍料理小説集』【小説】
1989 年『ラッフルズホテル』【小説】
1989 年『ビッグ・イベント』【エッセイ】
1989 年『友達のラ リ ル レ ロ』【絵本】
1991 年『コックサッカーブルース』【小説】
1991 年『超電導ナイトクラブ』【小説】
1991 年『恋はいつも未知なもの』【小説】
1992 年『龍言飛語』【エッセイ】
1992 年『イビサ』【小説】
1992 年『長崎オランダ村』【小説】
1993 年『エクスタシー』【小説】
1993 年『フィジーの小人』【小説】
1993 年『368Y Par4 第 2 打』【小説】
1993 年『音楽の海岸』【小説】
1993 年『「普通の女の子」として存在したくないあなたへ。』【エッセイ】
1994 年『昭和歌謡大全集』【小説】
1994 年『五分後の世界』【小説】

- 1994 年『ピアッシング』【小説】
- 1995 年『KYOKO』【小説】
- 1995 年『村上龍映画小説集』【小説】（平林たい子文学賞）
- 1996 年『ヒュウガ・ウイルス 五分後の世界 II』【小説】
- 1996 年『メランコリア』【小説】
- 1996 年『ラブ&ポップ トパーズ II』【小説】
- 1996 年『はじめての夜 二度目の夜 最後の夜』【小説】
- 1996 年『あなたがいなくなった後の東京物語』【エッセイ】
- 1996 年『モニカ-音楽家の夢・小説家の物語』【小説】（坂本龍一との共著）
- 1996 年『すてきなジェニファー』【絵本】
- 1997 年『オーデション』【小説】
- 1997 年『ストレンジ・デイズ』【小説】
- 1997 年『イン ザ・ミソスープ』【小説】（読売文学賞）
- 1997 年『白鳥』【小説】
- 1998 年『ライン』【小説】
- 1998 年『ワイン一杯だけの真実』【小説】
- 1998 年『寂しい国の殺人』【エッセイ】
- 1998 年-2002 年『フィジカル・インテンシティ I～V』【エッセイ】
- 1999 年『寂しい国から遥かなるワールドサッカーへ』【エッセイ】
- 1999 年『あの金で何を買えたか バブル・ファンタジー』【絵本】
- 2000 年『共生虫』【小説】（谷崎潤一郎賞）
- 2000 年『希望の国のエクソダス』【小説】
- 2000 年『誰にでもできる恋愛』【エッセイ】
- 2000 年『ストレイト・ストーリー』【絵本】
- 2001 年『タナトス』【小説】
- 2001 年『THE MASK CLUB』【小説】
- 2001 年『最後の家族』【小説】
- 2001 年『悪魔のパス 天使のゴール W 杯をめぐる冒険』【小説】
- 2001 年『ダメな女』【エッセイ】
- 2001 年『おじいさんは山へ金儲けに 時として、投資は希望を生む』【絵本】
- 2002 年『2days 4girls 2 日間で 4 人の女とセックスする方法』【小説】
- 2002 年『だまされないために、わたしは経済を学んだ 村上龍 weekly report』【エッセイ】
- 2002 年『恋愛の格差』【エッセイ】
- 2002 年『マクロ・日本経済からミクロ・あなた自身へ 村上龍 weekly report』【エッセイ】

2003 年『とおくはなれてそばにいて』【小説】短篇選集

2003 年『どこにでもある場所どこにもいないわたし』【小説】(文庫版刊行時に『空港にて』に改題)

2003 年『自殺よりは SEX 村上龍の恋愛・女性論』【エッセイ】

2003 年『13 歳のハローワーク』【職業図鑑】

2003 年『ポストマン』【絵本】

2005 年『半島を出よ』【小説】毎日出版文化賞・野間文芸賞

2006 年『わたしは甘えているのでしょうか? 27 歳・OL』【エッセイ】

2006 年『村上龍文学的エッセイ集』【エッセイ】

2006 年『シールド(盾)』【絵本】

2007 年『特権的恋人美食 村上龍料理&官能小説集』【小説】

2007 年『案外、買い物好き』【エッセイ】

2008 年『それでもわたしは、恋がしたい 幸福になりたい お金も欲しい』【エッセイ】

2009 年『無趣味のすすめ』【エッセイ】

2010 年『歌うクジラ』【小説】(毎日芸術賞)

2010 年『新 13 歳のハローワーク』【絵本】

2011 年『心はあなたのもとに』【小説】

2012 年『55 歳からのハローライフ』【小説】

2013 年『自由とは、選び取ること』【エッセイ】

2015 年『オールド・テロリスト』【小説】

2015 年『おしゃれと無縁に生きる』【エッセイ】

2020 年『MISSING 失われているもの』【小説】

2023 年『ユーチューバー』【小説】

以上